

⑤2 広島港クルーズターミナル整備事業

受賞機関 広島県 土木建築局 港湾漁港整備課
広島県 広島港湾振興事務所

キーワード 大型クルーズ船、CIMによる3Dモデル、整備期間の短縮、デザインビルド方式

全建賞審査委員会の評価ポイント

広島港ではクルーズ船寄港増に対応し、宇品地区で岸壁改良とターミナル整備を実施。令和5年の寄港回数は、全国6位となる58回で、過去最多を記録した。ジャケット工法の採用や大型起重機船での一括施工により、大幅な工期短縮を実現。さらに、先行工事の出来形を反映したCIMモデルを用いてジャケットの据付シミュレーションを行い、現場作業の省力化を実現した点などが評価された。

1. はじめに

本事業では、急増するクルーズ船の寄港回数への対応とクルーズ船の受入環境の充実を目的として、広島港宇品地区において既存の岸壁を改良し、新たにクルーズターミナルを整備した。これにより、クルーズ船の受入環境が整ったことで、令和5年には、外国船社が運航するクルーズ船の広島港への寄港は全国6位となる58回に達し、過去最高を更新した。



広島港の全景

2. 事業の概要

本事業の実施に当たっては、急増するクルーズ需要に対応するため、12万トン級のクルーズ船が受け入れられるよう、早期に岸壁整備とクルーズターミナルの整備を進め、受入環境を整える必要があった。

岸壁整備では、工期短縮を目指し、既存施設を活用した。また、延伸部はドルフィン構造、栈橋部はジャケット工法を採用し、大型起重機船による一括施工を実施することで、大幅な工期短縮を図った。

また、ジャケットにおいては、杭工事打設後にジャケット及び杭のCIMモデルを作成し、ジャケット据付シミュレーションを実施することにより、部材の取り合いを視覚的に捉え、ジャケット製作に反映することで、

現場作業での高さ調整など、作業の省力化や不具合など手戻りを防いだ。

一方、クルーズターミナルの整備では、国内外の観光客に対して魅力ある外観デザインとするため、技術力・想像力・発想力に優れた事業者を募集する公募型プロポーザル（デザインビルド方式）を採用した。



広島港クルーズターミナル全景

3. 事業の成果

既存施設の活用、ジャケット工法等の採用やCIMモデルの活用で、事業費の圧縮と整備期間の大幅な短縮を実現した。

また、デザインビルド方式を採用することで、「機能性、デザイン性、環境配慮」の機能を備えた、広島の新たな「みなとの玄関口」に相応しいクルーズターミナルを整備することができた。

4. おわりに

令和4年10月に岸壁改良工事が完了し、クルーズ船の受入を再開した。さらに、令和6年3月にはクルーズターミナルの供用を開始し、広島港におけるクルーズ船の受入環境が大きく向上している。

今後も、陸路、空路に加えて、海路からも多くの人々を受け入れる環境を整えることで、地域の活性化が期待される。

賛助会員 中電技術コンサルタント(株)、山陽建設(株)、
エム・エムブリッジ(株)、カナデビア(株)